

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600699		
法人名	TNふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 1階		
所在地	苫小牧市拓勇東町2丁目17番29号		
自己評価作成日	2023.3.10	評価結果市町村受理日	2023.4.11

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御家族や御本人の意向を取り入れ、本人状況に合わせたプランを立案し支援出来るよう心掛けている ・季節の行事や馴染みの行事、誕生日会等を行い楽しみが感じられるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR駅や商業施設に程近く徒歩圏に公園がある2ユニットの事業所である。町内会に加入し町内会長が町内会報紙を届けてくれており、運営推進会議の協力も得られている。管理者は開設時に内覧会開催が難しかった事や施設としての感染対策上の制限等を礼節を持って伝えつつ地域密着型の運営を目指している。書面開催の運営推進会議は、報告の他、毎回、協議事項を設定し構成員に意見要望を聴取する仕組みを設け会議を推進している。笑顔あふれる遊び心満載の作業療法的なレクリエーションに優れ、場面ごとに利用者個々の身体状況に合わせ達成感や満足度を高められるようにし集団活動以外では興味関心ごとに沿って将棋や本、DVD視聴、職員手作りパズルや牛乳パックタワーなど、したい事が楽しめる環境を構成している。誕生日食は本人のリクエストに応じて提供し、行事のおやつは桜餅やべこ餅、おはぎなどを利用者が手作りし個性豊かな出来栄に季節を感じつつ、楽しい、美味しいと賑わいながら幸せな気分になってもらえるようにしている。これらの生活の様子はブログ発信や毎月事業所便りに個別に写真とメッセージを添え家族へ送付している。敬老会は家族からの写真とメッセージを額に入れ利用者に渡すなど家族と共に本人を支える支援に努めている。新人職員には介護で体感した事や課題解決ができるよう新人業務日誌を活用し育成している。開設3年目を迎え、ケア理念の実践に向け日々努力している事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所前のボードに理念を掲示し毎月の目標の中に理念を組み込み目標を心掛けている	ケア理念は、家庭的な環境、人権、人格の尊重、地域との交流について表明している。パンフレットに明示し、事業所内要所へ掲示している。月ごとに理念を踏まえた目標を掲げ、意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍な為、直接の関わりを持つことは出来ない	町内会に加入し、町内会長が拓勇東町内会報や防災カレンダーを届けてくれている。町内会の春の清掃活動への参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍な為、直接の関わりを持つことは出来ない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍な為、直接の関わりを持つことは出来ないが書面で御意見を伺い反映している	書面会議で開催している。利用者状況及び活動報告、事故報告は状況と対策、再発防止策を報告している。協議事項も提示し、構成員から意見、要望を得る仕組みの元に次回書面でフィードバックしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中積極的にやっていないが必要時には安全な環境を整え実施している	市の介護福祉課担当者部署とは、必要書類の提出や制度等の案件で意見を仰ぎ、指導や助言を得ている。保健所とは感染対策で都度連携し対応に当たった。市グループホーム協会の研修等に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず研修を実施し3か月に1回の担当者会議6か月に1回全職員対象の研修(事例研修)を行っているカンファレンス会議でも課題にし共通意識を持ち可能な限り本人の気持ちに沿ったケアに努めている	3か月に1度、不適切ケア(身体拘束・虐待)防止委員会を開催している。事案や予防・防止を協議している。今年度のこれらに係る内部研修は「車椅子ベルト」「食事介助時の虐待」を学び、職員個々に研修報告書を提出し意識化に努めている。防犯上の理由により夜間のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の担当者会議、6か月に1回全職員対象の研修(事例研修)を実施している カンファレンス会議にも課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要としている入居者がいない為積極的に学んではいないが、今後研修に参加する等して必要時に対応できるよう努める		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明及び契約書を持ち帰りじっくりお読み頂くようお願いし同意して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの更新時には必ずご本人や御家族に意向を伺いプランに組み込むよう努め面会や電話でお話しする際には本人状況を説明し意見、意向を伺い日頃のケアや運営に取り組んでいる	一例であるが、利用者からの「散歩に行きたい」の意見にはタイミングを見ての対応や介護計画に盛り込み反映に努めている。家族からは、電話等の接する機会や運営推進会議書面で意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプラン立案の際には職員からの意見をユニットリーダーに伝え会議参加者で検討し各ユニットで共有するよう努めている	毎月、役職会議とユニットごとにカンファレンス会議を開催し、管理者は現場職員の意見や情報を取り入れ、業務や支援について一緒に話し合い調整している。新人職員のOJTでは、新人業務日誌を活用し担当職員と意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心が持てるよう資格所得の研修参加に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した研修で学べるよう課題を設定し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は電話やオンラインで交流する機会を設けているが、コロナ禍の中職員は積極的に参加出来ていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には必ず御本人と御家族に面談し各自に要望、意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減されるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族の不安や困り事を共有しながら本人の生活がサポート出来るよう心掛けている 面会時やお電話でも御相談頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、御家族、御本人の双方が納得出来るような提案、相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はして頂き、一方的ではなくどうしたらよいか等、共に考え提案し自己決定の場面が増えるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下によるリスク等は事前にお話しさせて頂き 御家族の精神的負担軽減に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で積極的に取り組めてはいませんが、届けられたお手紙をお預かりし読んでお聞かせしたり、お電話で話せる環境の提供に努めている	面会は玄関内で感染防止対策を講じ実施している。親族からの手紙を代読したり、家族との電話を取り次いでいる。家族写真とメッセージを家族に依頼し届けてもらい、額に入れ敬老会の場面で利用者に渡すなど、大切な関係を温かく支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムを崩されない様無理せず互いが認め合い円滑な関係が保てるよう心掛けている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況に合わせ対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や思いを尊重し自己決定を促しながら行うよう努めている	利用者から直接聞くことを第一義にし、支援場面で本人の意思が形成されるよう促し、意見や思いを把握している。利用者の様子からもどのように過ごしたいか情報共有し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報や御家族、御本人にお聞きする等し日々の生活に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメントや会話、心身状況を観察し変化に合わせたケアが実施されるよう努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や御家族の意向をお聞きし、現状に適切な計画が立案出来るようカンファレンス会議や担当者会議を行えるよう努めている	アセスメントはセンター方式も用い変化等を加筆している。日々の申し送りや毎月のカンファレンスで意見討議し新たな気づきを情報共有しモニタリングにつなげ、本人、家族、医療関係者の意見も適宜反映させ介護計画を策定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個のケース記録や業務日誌、申し送りノートを活用し情報共有に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や御家族の状況を把握し状況に合わせたサービスが提供出来るよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中積極的に取り組む事は出来ていない			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診の対応を行い検査結果や服薬変更時等を御家族に報告すると共に月2回の訪問看護に相談指示を仰いでいる	協力医療機関とそれ以外の医療機関への通院受診を支援し、家族の協力も得ている。歯科は必要時に往診が受けられ、口腔衛生管理に関する助言も得て口腔ケア支援を行っている。月に2回看護師が訪問している。受診後は看護記録に記載し家族へ報告している。		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している協力医療関係や薬剤師に相談できる体制、情報共有に努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い御家族の意向を受け入れながら相談出来る体制作りに努めていると共に医療関係と連携し情報共有している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療行為が必要になった場合の説明を行っている 日々の生活の中で体調の変化や対応、予測される事等も事前にお伝えし事業所での対応を説明している	「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」を定め、利用契約時に説明し同意を得ている。主治医の判断等により家族の意向を確認し、医療関係者を含めた関係者間で今後の対応方針を協議し支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、災害訓練を入居者と共に実施している	令和4年9月に夜間想定、今年3月に日中想定で地震から火災発生時の避難訓練を実施した。シェイクアウト訓練にも参加し、利用者個々に防災カードを備えている。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定している。	収容避難所生活を想定した図上訓練を市の防災担当者等の協力等を仰ぎ進めることとしており、また、階段使用時の避難誘導のあり方を訓練を通じ検討する予定であるので、その取り組みに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに反した言葉を使用しない様職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損ねない様努めている	不適切ケア委員会で事例を挙げ対応や防止策を協議し適切な支援に向けている。個人情報には主にシステム管理し、紙媒体の書類と共に事務室で管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや意向を伺い自己決定されるよう促すよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務時間帯によって職員側の動きになっている事もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人に出来る事はしてもらい起床時の衣類や整容に清潔感が感じられるよう心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはホールの掃除や調理の下準備や後片付けに関わりを持ちやりがいを感じられるよう努めている	利用者は食事の一連の流れの中で可能な事に参加している。誕生日食はリクエストに応え、敬老会の祝い御膳や出前、縁日メニューなど多彩な行事食である。正月餅や桜餅、べこ餅なども利用者が個性豊かに形成し食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てている 個々の摂取状況に合わせた形態で食べやすい様工夫し提供している 摂取量は毎食記録し把握するよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回口腔ケアを実施している 自身で出来る方はしてもらい仕上げ磨きが必要な方は介入している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者は基本トイレでの排泄を促し心掛け、尿意便意確認を行い排泄誘導、排泄記録での時間間隔の把握に努めている	排泄チェック表を活用し定時誘導にてトイレでの自然排泄を促している。就寝後も目覚めた場合は意思確認の上でトイレ誘導し失敗を軽減している。最終排便日や便の性状等もシステム記録以外に紙媒体で記録し共有に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整を行うと共に牛乳、ヨーグルトや御家族が手配された乳酸飲料等を提供、排泄時の腹部のマッサージ等を実施するよう心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが受診や本人の希望で入られない場合、時間や曜日にとらわれず支援するよう心掛け、1週間に最低2回は入浴されるよう努めている	本人の希望で毎回午後3時以降に入浴する利用者や入浴が苦手な週2回の入浴が難しい利用者には清拭を行う場合もある。入浴剤の使用や足マットや椅子タオルは利用者ごとに交換し衛生管理に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に応じて日中の臥床を促す等して支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは提携しているふよう薬局で対応しているが毎日の提供準備はセット、確認、提供担当者が責任を持って対応する様心掛けている 説明書を読み取りいつでも確認出来るよう対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事(掃除、食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ等)出来る事にやりがいを感じられるよう心掛け 季節の行事に参加して頂き気分転換し楽しめるよう支援している		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でほぼ実施出来ていないが車でのお花見や紅葉見学に出掛ける事で支援している	金太郎池や演習林へ季節を感じるドライブや利用者の希望で港へ船の出航を見に行く機会を設けた。外出がてら車内で馴染みのアイスクリームを食べたりと楽しめるようにしている。天候の良い時期は事業所周辺の散歩や外気浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品はホームの立替金で購入している自身で買い物をする支援は行っていない			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等本人が希望されたときは都度対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内のホワイトボードを使用し季節を感じられるような環境作りを心掛けている	玄関には手洗いや自動検温の設備がある。リビングとダイニングが一体となった造りで、食席以外にソファコーナーを設け、壁面ホワイトボード2か所に季節の装飾を施し、観葉植物やカレンダーを掲示している。トイレは前傾姿勢保持可能な補助具も設置している。エアコンや空気清浄機、加湿器等で空調管理し居心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや食卓テーブルの食席でテレビを観られたり、おしゃべりする等して、個々に自由に居室に戻られ過ごされている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人状況に合わせホームでの備え付けの物や御家族が準備された物、自身の馴染みの物や御家族と相談し追加した家具で整理された危険のない環境を工夫し提供している	居室には介護用ベッド・マット、クローゼット等が備え付けであり、使い慣れた調度品や小型のタンスの持ち込みを依頼している。テレビやラジオ、DVDの視聴や本を読むなど自由に過ごせる居室環境である。利用者の状態変化に伴い配置を変更し動線確保している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に目印になるような工夫をし迷わない動きが出来るよう心掛けている			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600699		
法人名	TNふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 2階		
所在地	苫小牧市拓勇東町2丁目17番29号		
自己評価作成日	2023.3.10	評価結果市町村受理日	2023.4.11

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御家族や御本人の意向を取り入れ、本人状況に合わせたプランを立案し支援出来るよう心掛けています ・季節の行事や馴染みの行事、誕生日会等を行い楽しみが感じられるよう支援している
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0193600699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所前のボードに理念を掲示し毎月の目標の中に理念を組み込み目標を心掛けている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことは出来ていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことは出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことは出来ていないが書面で御意見を伺い反映している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中積極的に行ってはいないが必要時には安全な環境を整え実施している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず研修を実施し3カ月に1回の担当者会議6カ月に1回全職員対象の研修(事例研修)を行っているカンファレンス会議でも課題にし共通意識を持ち可能な限り本人の気持ちに沿ったケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回の担当者会議、6カ月に1回全職員対象の研修(事例研修)を実施しているカンファレンス会議にも課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要としている入居者がいない為積極的に学んではいないが、今後研修に参加する等して必要時に対応できるよう努める		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明及び契約書を持ち帰りじっくりお読み頂くようお願いし同意して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの更新時には必ずご本人や御家族に意向を伺いプランに組み込むよう努め面会や電話でお話しする際には本人状況を説明し意見、意向を伺い日頃のケアや運営に取り組んでいる		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプラン立案の際には職員からの意見をユニットリーダーに伝え会議参加者で検討し各ユニットで共有するよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心が持てるよう資格所得の研修参加に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した研修で学べるよう課題を設定し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は電話やオンラインで交流する機会を設けているが、コロナ禍の中職員は積極的に参加出来ない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には必ず御本人と御家族に面談し各自に要望、意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減されるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族の不安や困り事を共有しながら本人の生活がサポート出来るよう心掛けている 面会時やお電話でも御相談頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、御家族、御本人の双方が納得出来るような提案、相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はして頂き、一方的ではなくどうしたらよいか等、共に考え提案し自己決定の場面が増えるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下によるリスク等は事前にお話しさせて頂き 御家族の精神的負担軽減に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で積極的に取り組めてはいませんが、届けられたお手紙をお預かりし読んでお聞かせしたり、お電話で話せる環境の提供に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムを崩されない様無理せず互いが認め合い円滑な関係が保てるよう心掛けている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況に合わせ対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や思いを尊重し自己決定を促しながら行うよう努めている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報や御家族、御本人にお聞きする等し日々の生活に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメントや会話、心身状況を観察し変化に合わせたケアが実施されるよう努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や御家族の意向をお聞きし、現状に適した計画が立案出来るようカンファレンス会議や担当者会議を行えるよう努めている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個のケース記録や業務日誌、申し送りノートを活用し情報共有に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や御家族の状況を把握し状況に合わせたサービスが提供出来るよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中積極的に取り組む事は出来ていない			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診の対応を行い検査結果や服薬変更時等を御家族に報告すると共に月2回の訪問看護に相談指示を仰いでいる			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している協力医療関係や薬剤師に相談できる体制、情報共有に努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い御家族の意向を受け入れながら相談出来る体制作りに努めていると共に医療関係と連携し情報共有している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療行為が必要になった場合の説明を行っている 日々の生活の中で体調の変化や対応、予測される事等も事前にお伝えし事業所での対応を説明している			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、災害訓練を入居者と共に実施している			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに反した言葉を使用しない様職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損ねない様努めている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや意向を伺い自己決定されるよう促すよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務時間帯によって職員側の動きになっている事もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人に出来る事ははしてもらい起床時の衣類や整容に清潔感が感じられるよう心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはホールの掃除や調理の下準備や後片付けに関わりを持ちやりがいが感じられるよう努めている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立っている 個々の摂取状況に合わせた形態で食べやすい様工夫し提供している 摂取量は毎食記録し把握するよう努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回口腔ケアを実施している 自身で出来る方はしてもらい仕上げ磨きが必要な方は介入している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者は基本トイレでの排泄を促し心掛け、尿意便意確認を行い排泄誘導、排泄記録での時間間隔の把握に努めている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整を行うと共に牛乳、ヨーグルトや御家族が手配された乳酸飲料等を提供、排泄時の腹部のマッサージ等を実施するよう心掛けている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが受診や本人の希望で入られない場合、時間や曜日にとらわれず支援するよう心掛け、1週間に最低2回は入浴されるよう努めている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に応じて日中の臥床を促す等して支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは提携しているふよう薬局で対応しているが毎日の提供準備はセット、確認、提供担当者が責任を持って対応する様心掛けている 説明書を変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事(掃除、食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ等)出来る事にやりがいを感じられるよう心掛け 季節の行事に参加して頂き気分転換し楽しめるよう支援している			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でほぼ実施出来ていないが車でのお花見や紅葉見学に出掛ける事で支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品はホームの立替金で購入している 自身で買い物をする支援は行っていない			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等本人が希望されたときは都度対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内のホワイトボードを使用し季節を感じられるような環境作りを心掛けている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーや食卓テーブルの食席でテレビを観られたり、おしゃべりする等して、個々に自由に居室に戻られ過ごされている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人状況に合わせてホームでの備え付けの物や御家族が準備された物、自身の馴染みの物や御家族と相談し追加した家具で整理された危険のない環境を工夫し提供している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に目印になるような工夫をし迷わない動きが出来るよう心掛けている			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームたく遊

作成日：令和 5年 4月 8日

市町村受理日：令和 5年 4月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	収容避難所を想定した図上訓練を市の防災担当者等の協力等を仰ぎ進めることとしており、また、階段使用時の避難誘導のあり方を訓練を通じ検討する予定ではあるが現状のコロナ対策や密にならない空間の確保等の問題点、対策が課題	収容先での入居者、職員の対応、市や地域の取り組みの把握 階段使用時の入居者の身体負担やより安全に避難する為の対策と取り組みを検討、周知する	市の防災担当者等に依頼する等し、市の取り組み、避難場所での高齢者の対応、図上訓練等についての研修等を計画し職員の意識付けになるような内容で取り組む 階段使用の訓練に関しては通常の避難訓練時の実施予定とする	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。